

# 米書評

クリストファー タナード／ボリス プシュカレフ  
共著・鈴木忠義訳編

## 国土と都市の造形

書評者  
松本 洋\*

この本は、Man-Made America の翻訳で、近代技術文明の生んだ現代アメリカのひずみを、数多くの写真で浮き彫りにして、国土計画に対する新たな取り組み方を提案している。

人間性にあふれた生活環境の創造には、ほど遠い無秩序と単調さを具体的に取り上げ、歴史的、経済的、社会的分析を加えながら論旨を進めている。

「進展しつつあり、形態として定着しつつある低密度住宅地域、高速道路、工業地域、商業地域、リクリエーション地域の発展」の根本によたわる新しい秩序の原則をうちたてている。生活に密着した景観を軸とした価値観の確立が、これである。

特にアメリカの問題として、景観の面を無視されがちな都市近郊地域の開発問題を重点的に取り上げており、発展の歴史から説き起こして計画の方法論まで言及している。ともかく開発にともなう諸問題の工学、美学、生理学、心理学といった分野を集約的に網羅して、景観工学ともいべきものに体系づけた著者の努力は、敬服に値すると思う。この二人の著者がランドスケープ アーキテクトとして、実務家として、教師あるいは研究員としての豊富な経験が、この本を生み出す母体になったといえるだろう。訳者は、幅広く新しい景観工学の分野を日本に導入、開発されている鈴木忠義氏であり、この本の訳出を思いたたれたこともまた当然の帰結といえよう。ただ計画や設計の方法論が特に新しいというものでもないで、始めから論旨を追って通読するということよりも、適当な箇所を広げて、1ページに2枚の割で掲載されている写真とその説明を読みながらその前後の本文を読んで、アメリカの雰囲気を理解することが、この本の上手な利用の一つかもしれない。

しかしながら、この本の価値が単なる断片的知識の集録にとどまらないのは、全体のなかでこの景観の問題が位置づけられ、単体としての建築、個々の高速道路、あるいは都市計画を、その審美的な側面からだけ扱かず、総合的に国土計画の観点より扱かっているからである。

う。訳者もその点を強調することを意図し、日本版の題名を「国土と都市の造形」としたのであろう。

戦後急速な経済成長にともなう都市人口の激増、モーターリゼーション、それにともなう周辺地域の無計画な開発の行なわれている日本では、ともかく計画の具体化に重点がおかれ、質より量の問題が考えられてきた。したがって、また景観工学自体についても、その価値を認め余裕はなかった。しかしながら、20年後のわれわれの生活が、その所得の伸びから現在のアメリカの生活水準に大体達することを予想するとすれば、この本の示唆するように、景観の価値を認める態度を今から企画、計画の段階で組み込んでいくべきである。日本の場合は土地が狭隘で、一般的に可住地域はごく限定され、その上全般的に高密度であるとすれば、著者の考へている「田園派」的考え方では律することができない面も出てくる。この辺は、著者二人のもつランドスケープ アーキテクトとしての背景のしからしむるところかもしれない。

日本語版についていえば、原本に忠実なものを出版するように特に意を用いた点に気がつく。B5判の本の大きさ、装丁、割り付け、一段組み方等寸分たがわぬよう心がけられており、原本の雰囲気がそのままもたれている。少々小さいと思われる8ポの文字も、こんなところから決められたと想像される。訳も原文に忠実であるよう努力され、文体も多人数で訳しながらよく統一がとれているが、ときどき訳のこなれていないところも見受けられる。また「訳す」ことに徹しすぎて、あまり一般的に通用していない有名詞訳を案出されたり、尺度はすべてフィート、ポンドからメートル法に換算されていて、かえって端数が多くわかりにくいところもあった。

ともかくきれいな楽しい本ができたが、値段が高いのが残念である。原本が15ドルであるから5600円は訳本の方が高いということになる。できるだけ広い読者層をねらい、またそれがこの本の目的に通ずるとすれば割切れない気持ちにもなる。原本の雰囲気をそのままにして、価格を下げるということは部数を多く売るということであり、その点で出版社の努力を期待したかったが、このような本があまり売れない社会だからこそ、またこの本を世に出す意味もあり、それゆえ、ともかく出版に踏み切った出版社の見識に敬意を表すべきなのかもしれない。

景観工学自体がまだ確立されていない学問の分野であるから、学術的にこの本を評価することは非常にむずかしい。

ともかく大変すぐれた啓蒙書であり、現代日本の社会が最も必要とする up-to-date な労作であると思う。

(鹿島研究出版会刊、B5・460ページ、定価5600円)

\* 日本道路公団 東名道路建設部計画課